

ペット防災のキホン

災害時はペットと一緒に “同行避難”

同行避難

避難が必要な場合、飼い主はペットと一緒に安全な場所まで避難することが原則です。

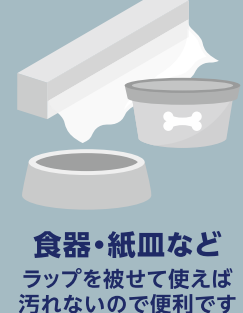
過去の災害では、いったん避難した飼い主がペットを避難させるため自宅に戻ったところ災害に巻き込まれたケースや、ペットが飼い主とはぐれて放浪状態となり、人に危害を加えたり繁殖して公衆衛生が悪化するといった問題が起こりました。



必要な “グッズの準備”



クレート・ケージ
キャリーバッグ



食器・紙皿など
ラップを被せて使えば
汚れないので便利です



予備の首輪・リード
(伸びないもの)



フード・水
5〜7日分
(普段食べているもの)



トイレ・マナー用品
ペットシートや
処理用具は必須です



常備薬・療養食
多ければ多いほど
安心です

避難所で必要な最低限の “しつけ”



クレート・キャリー
に慣れる



オイデ
マテ
オスワリ



トイレ



吠えない
咬まない

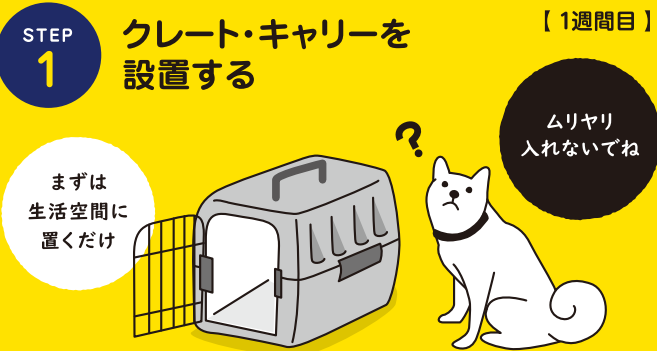


ペットの社会化

クレート&キャリー トレーニング に Try!



注意 クレートやキャリーに入れないと、避難所での同室避難が難しくなります。



STEP 1 クレート・キャリーを
設置する 【1週間目】

まずは生活空間に置くだけ
ムリヤリ入れないでね



STEP 2 クレート・キャリーに
好みのフードを置く 【2週間目】

中に入っても急に閉めない
NG



STEP 3 クレート・キャリーにフード
を投げ入れる 【3週間目】

フードを数粒投げ入れる
中から顔を出した時に数粒



STEP 4 扉を閉める 【達成!】

フードを持つと自分から入るようになったら
扉を閉める
GOOD

人懐っこく、飼い主以外の人も仲良くなれば、避難所での共同生活はもちろん、飼い主に万が一のことがあった場合に世話をしてもらいやすくなります。

※社会化やしつけの方法は、ペットの性格や性質によって違います。獣医師や専門家のアドバイスをを受けることをお勧めします。



声をかけてもらいやすい



避難所でもみんなに愛される
(トラブルになりにくい)

府中市の避難所は、ペットと一緒に生活できる “同室避難” スペースがあります。

同室避難

避難所でのペットの飼育管理は、飼い主が責任をもって行うことが原則となります。

動物が苦手な方や動物アレルギーの方がいますので、お互いの気持ちを尊重しつつ、ルールやマナーを守って避難所を利用することが求められます。

ペットを飼っている人の気持ち



やっぱり避難は車中泊になるのかな？

ペットのトイレが心配

吠えたり鳴いたりしたらどうしよう

ペットは家族だから一緒にいたい

避難所への立ち入りを断られたらどうしよう

餌や水、ケージやリードはあるのかな

避難所にペット専用のスペースが欲しい

ペットの種類ごとにスペースが欲しい

ペットを飼っていない人の気持ち



動物アレルギーだから近寄らないでほしい

糞尿やけもの臭くて嫌だ

ペットから目を離さないで欲しい

鳴き声がうるさい

ルールやマナーを守ってほしい

吠えたり、咬みついたりしそうで怖い

ちゃんとしつけて欲しい

人命を優先して欲しい

やっておきたい “ペットの管理”

不妊・去勢

動物は自らの意思で繁殖をコントロールできません。年齢や身体状況によっては不妊や去勢手術にリスクが伴う場合があるため、かかりつけの獣医師とよく相談してください。

病気の予防



オスの行動変化



不妊・去勢のメリット



発情中のストレス軽減



望まない妊娠を避ける

1頭のメス猫が…

1年後には20頭以上

2年後には80頭以上

3年後には2000頭以上

メス猫は生後4〜12か月で子猫を産めるようになります。また、年に2〜4回発情期があり、1回に4〜8頭の子猫を産みます。
【引用】環境省 新・普及啓発用パネル「不妊・去勢手術をして飼いましょう」

はぐれても “必ず再会” するために

突然の災害により、ペットと離ればなれになってしまう可能性があります。ペットが迷子になり、どこかで保護されたときに、飼い主がすぐに分かるよう、普段から身元を示すものをつけておくことが大事です。

重要

脱走の際に首輪が外れたり、迷子のあいだに瘦せて首輪が外れたりすることがあるため、マイクロチップは迷子の二重対策として有効です。

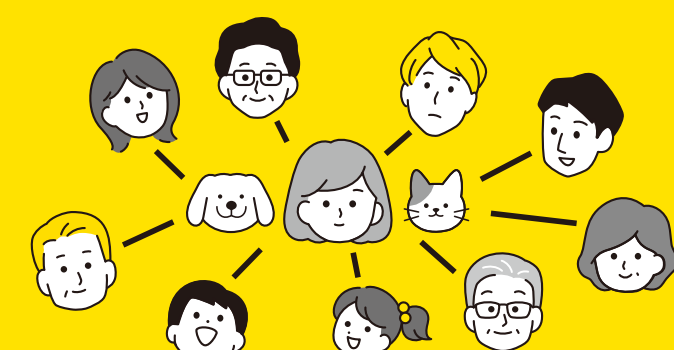
しっかり備えて “在宅避難”

在宅避難

ペットは環境の変化により強いストレスを受けます。家具の転倒防止や防災備蓄を行い、発災後も自宅の安全が確保できるよう備えて、自宅で過ごす在宅避難も考えよう。

飼い主による “共助”

ペットへの理解があり、共にペットを気にかけてくれる仲間を作りましょう。自分が動けないときにサポートをお願いしたり、ペットに関する支援情報を共有したりすることができて、心の支えにもなります。



家具等が転倒してペットが怪我をしたり、怖い思いをすると強いストレスがかかってしまいます。家具類の固定は、大切な家族の一員であるペットの命を守ることにつながりますのでしっかり対策を行いましょう。